

《書籍紹介》

着床前診断検査 (PGT-A) の基礎知識と細胞分離手技

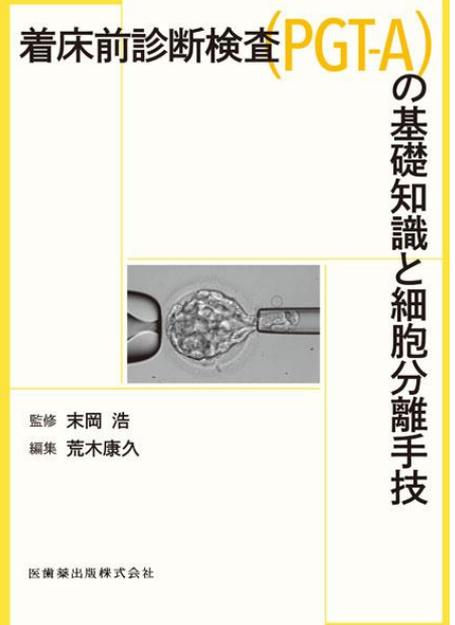
末岡浩 監修 / 荒木康久 編

医歯薬出版株式会社

定価 4,320 円 (本体 4,000 円+税 8%)

欧米では着床前に胚の染色体数の異常を検査して、正常な可能性の高い胚だけを移植する治療がルーチン的に実施されています。この方法を特に PGT-A (Preimplantation genetic testing for aneuploidy) と呼ばれています。一方、現状本邦では学会が会告で禁止していますので、医療機関は自由に行うことはできません。しかしながら、現在学会が主導する PGT-A 特別臨床研究が行われていて、第 1 段階では良好な結果が得られていると先日発表されました。今後は実機医療機関を増やし、対象を広げて検討が継続されるようです。

上記のような状況から判断して、近い将来には本邦でも PGT-A の実施が広がってくるように感じています。PGT-A は、胚盤胞から一部の細胞を採取する高度な技術や、関連する遺伝や染色体の知識が不可欠となります。本書籍は、現状が抱える着床前診断の問題点に始まり、遺伝子やエピジェネティクスの基礎、検査手法に用いられている次世代シーケンサーについて、諸外国における PGT-A の情報など広い範囲の内容を網羅されています。加えて、胚盤胞から細胞を採取する実際の手技について、複数の方が紹介してくれています。PGT-A は世界的にも比較的新しい技術であるため、検査手法も細胞採取テクニックも、今後改善が進んでいくと思われませんが、今から最新の情報を取り入れたり、細胞採取の技術的な練習をしておいたりすることは非常に重要だと思っていますので、この機会に注目してみてもいいのではないでしょうか？本書籍は PGT-A の最初の入り口として最適だと思います。



書籍は、Amazon や医歯薬出版株式会社の Web サイトから購入可能です。

また、中身の一部見本は、下記のサイトで閲覧が可能でしたので、ご興味のあるかたは是非覗いてみて下さい。

https://www.ishiyaku.co.jp/search/details_1.aspx?bookcode=226820